



【日本列島四季の花火】-⑩「5カ所うちあげの紫点滅牡丹」新潟県 柏崎市「ぎおん柏崎まつり海の大花火大会」 写真・文：泉谷玄作

花火は、昭和25年に市制10周年を記念し、商工祭と八坂神社の奉納花火を合わせて開催。八坂神社の奉納花火の歴史は古く、707(慶雲4)年奈良時代を迎える一年前に疫病が流行し奉幣したという言い伝えがある。奉納花火は、疫病や災難を打ち払うための祭りで、祭礼は7月7日から14日に柏崎市西本町の八坂神社が行っていた祭礼。疫病が流行するたびに御輿と奉納花火が打ち上げられていた。

新・八郎潟産つくだ煮 地域ブランド展開

会長 菅原 三朗

商工会が地域の小規模事業者と協力して、全国規模のマーケットを狙った特産品開発や販路開拓に取り組む事業を支援する、全国商工会連合会の新補助事業である「小規模事業者新事業全国展開支援事業」の募集を受けて、昭和飯田川商工会では当地域の特産品であり産地集積もある「佃煮」にスポットをあてた「新・八郎潟産つくだ煮地域ブランド展開」の事業計画案により応募し、これが採択決定された。

同商工会では事業の着手にあたり、より事業効果を高めようと各方面の専門家を含めたプロジェクト委員会を設置し、更に専門事項を調査研究するため「商品開発委員会」「販路開拓委員会」「ブランド設計委員会」の3つの専門委員会を設置している。

八郎潟産つくだ煮の生産は八郎潟の恵まれた漁場を背景にして、明治20

年代から続いてきた歴史ある佃煮の産地である。しかし八郎潟の干拓による漁獲量の減少で、生産業者は半減したものの現在も11社のつくだ煮業者があり、特にわかさぎは全国有数の漁場である。わかさぎやハゼのつくだ煮は干拓前は全国で20%程度のシェアがあったが現在は10%程度と想定されている。業界での全国的な評価はあるがメーカーへの納入がほとんどであり、製造業者としてのポジションにいるため一般消費者との接点が少なかった。そのため「八郎潟産つくだ煮」の独自の価値を打ち出しにくく、つくだ煮の産地としての長い歴史・技術・ノウハウという産地としての優位性を生かされてこなかったのが実態である。いま全体的に消費が伸び悩んでいるつくだ煮業界の中で、需用を拡大し将来的に安定した市場を確保していくためには、他の商品との差別化を図り市場での優位性獲得が不可欠である。そのためには「八郎潟産であることをブランド価値(魅力)として確立させる」ことであり、地域の生産業者がひとつにまとまり「ブランド価値」を確認し、商品開発・販路開拓・プロモ-

ーション等を展開することにより、「八郎潟産」の市場価値を創り上げていくことが出来る。そしてこれが八郎潟周辺地域という産地全体の活性化にもつながっていくものと思う。

具体的な新商品の開発は新しい「八郎潟産つくだ煮」の誕生であり、健康指向のつくだ煮・安全安心を保障するつくだ煮、原料・食品添加物など食に対する不安を取り除いたつくだ煮、カルシウム・セレンウム・ビタミンE等豊富な栄養素をアピールし、健康増進のために「スナック的感覚」でつくだ煮を食べていただく。次にテストマーケティング・調査により意見要望を収集・アンテナショップや消費者モニター等現代の消費者の嗜好・ニーズを反映させた商品開発が必要であり、直販チャンネルとしてファーストフードや販売店を開拓、ご飯のおかずではなくおやつ感覚で食べていただく「スナック需用」を目指している。

このように八郎潟産のつくだ煮として「地域ブランド化」していくために「新商品開発」「直販のための販路開拓」「ブランド化のためのコミュニケーション展開」等の具体化が必要であり、この事業の成果が期待される場所である。

建設産業人材確保・育成推進協議会

総合政策局長顕彰に
三又建設(株)が受賞

平成18年度建設産業人材確保・育成推進協議会全国会議（主催・国土交通省、建設産業人材確保・育成推進協議会）が、7月25日（火）午後1時から東京都港区の虎ノ門パストラルにおいて開催され、全国から約500人が出席した。

会議の冒頭、国土交通大臣政務官後藤茂之氏が挨拶の中で「建設産業がもう一度元気な姿になるよう次代の新しい力と、強い建設業の復活に向け人材の確保育成に取り組んでいかなければならない」と述べた。

続いて、建設産業人材確保・育成推進協議会委員長藤澤好一氏は「建設産業を取り巻く環境が依然厳しいなか、将来を見据えて建設業を支える優秀な

人材の確保育成がより一層重要になる」と述べ、今後も積極的に活動を推進する方針を示した。

引き続き建設産業の人材対策に功績のあった企業が顕彰され、国土交通大臣顕彰に四社、総合政策局長顕彰に十一社が受賞された。

本会会員関係では、三又建設（株）（代表取締役下村基作）が、経営の多角化を視野にあらゆる資格取得の費用負担を行うなど、全社員が臨機応変に力を発揮できる環境の整備及び人材の育成に尽くしていることが高く評価され国土交通省総合政策局長顕彰を受賞した。

最後に建設産業人材確保・育成推進協議会伊藤孝副委員長が、建設産業人材確保・育成推進協議会アピールを読み上げ、満場一致で採択された。



国土交通大臣表彰

伊藤・淡路両氏に栄誉

国土交通省は7月10日（月）、平成18年度建設事業関係功労国土交通大臣表彰を行い、239名・5団体が受賞。

多年建設業に精励するとともに、建設関係団体の役員として地方業界の発展に寄与してきた功績により、本会からは▽伊藤与四郎理事（山本支部／有限会社 伊藤組 代表取締役）▽淡路武男理事（秋田支部／株式会社 淡路建工 代表取締役社長）の両氏がこの栄誉に輝いた。



伊藤与四郎理事



淡路武男理事

人材確保・育成推進懇談会を開催

新規学卒者の雇用枠の拡大を要請

県協会では、平成18年7月6日（木）秋田ビューホテルにおいて、人材確保・育成推進懇談会を開催した。

懇談会には県立工業高校の建設関連学科担当教諭や、国、県を含めた人材協委員ら22名が出席。

初めに、人材確保・育成推進協議会川上会長は、「高校の入学定員がずいぶん減らされている。これは18歳の人口が年々減少しているという背景があると考えられる。また近年報道されている公共投資の削減、ダム不要論、環境破壊の元凶等というダーティーなイメージから、長期的な展望がみえにくいことから工業系大学における土木系への志願者も減少している。これまでの土木は『何とかのための土木』という目的がはっきりしていたが、昭和60年代、平成に入ってから『何とか』が消えてしまっている。長期的な人口の減少、国際化、技術の継承という問題がある中、人材確保、育成推進をどう進めていくかご意見をいただきたい。」とあいさつ。

引き続き協議事項に入った。

1. 18年度新規学卒者採用状況について

4月1日現在調査で、全県8支部361企業中29名の採用となっている。年度別支部別新規学卒者（新入社員）採用状況推移（H13年度～H18年度）を見ると、平鹿支部を除いて減少。平成14年度の103名に対して18年度は29名となっている。

2. 平成18年度新規学卒者学校別及び企業別採用状況について

学校別採用状況をみると各種学校では2校から3名、高等学校では9校から22名、大学では3大学から4名の採用となっている。

また地域別では平鹿支部関係が最も多く6企業に9名が採用されている。

3. 19年3月高校別卒業予定者進路希望状況について

19年3月卒業予定者の建設関連工業高校10校の生徒429名を対象に調査した結果、就職希望者は61.8%でそのうち建設会社等と希望している生徒は19.6%で、前年度より10.5%減となっている。過去2年間、建設会社への就職希望が減少している。

4. 最近の雇用情勢と18年度就職に関するスケジュールについて

秋田労働局職業安定課は「求人・求職の動向はパート、臨時、派遣は増えているが正規採用は横ばいである。都道府県別有効求人倍率は青森県が最下位、秋田県は47番中41位で依然として厳しい雇用環境が続いている。」

5. 18年度高校生の現場見学会及びインターンシップの実施について

高校生の現場見学会やインターンシップが公共工事の減少により対象現場が年々少なく実施に支障が出ている。

6. その他

意見交換

◎人材協委員側から

- ・高校生を採用すると5年、10年先じゃないと即戦力として使えない。在学中に資格取得等のご指導いただきたい。
- ・先生方指導者の求人の確保、アピールできる生徒を育ててほしい。

◎学校側から

- ・ここ数年、進学希望者が増えていて実習系の時間が減少している。選択科目を増やしたり、専門性を高めたいが物理的に困難である。

- ・地元がいい就職先がなく、専門学校へ進学するというケースもあるが、親も生徒も地元の会社へ就職したい気持ちはある。いい環境があれば地元への就職率は増えるのではないかと。



改正後独禁法時代を 生きる

建設青年協がセミナー

秋田県建設青年協議会（平野久貴会長）は、7月24日、県建設業会館において日刊建設通信新聞社前田哲治専務取締役編集総局長を講師に招いて「改正独禁法時代の生きる道」と題するセミナーを開催した。後援：東日本建設業保証（株）秋田支店

セミナーには、会員50名が参加、冒頭、平野会長は「品確法が適正に運用されるには発注者に意識改革が必要、我々にも守らなければならないルールがある。これからどうやって生きていくか、業界をどう守っていくか皆さんと一緒に考えていきたい」とあいさつ。

前田講師は、課徴金引き上げ、措置減免制度（リーニエンシー）など盛り込まれた改正独禁法のポイントや、入札ポンド導入の見通しなどを解説した上で、「経営トップが自らの言葉で会社をどう存続させていくか社員に示していくべきだ。また、内部留保で体力を温存し、社員教育を充実させ、戦う企業＝軍団を作ってほしい」と力強く呼びかけた。



土木 建築の

近代化 遺産

No.50

入道崎灯台

男鹿市北浦入道崎字昆布浦2-14



男鹿半島の西北端にある入道崎灯台は日本の灯台五十選にも入る有名な灯台である。北前船などが航行した帆船時代、隣り合う島漁港は仮泊地となり、戸賀湾には明治の初めに灯台があり、火費を入港船から徴収していたという。

入道崎に灯台が建てられ、初めて点灯されたのは明治三十一年（一八九八）十一月八日である。当時、山形、秋田沿岸の日本海には木製の酒田灯台と船川灯台があるだけだった。

初点された入道崎灯台は白色塗六角形の鉄製で高さ二四・五四m、石油四重芯灯で、二二、〇〇燭光、この第一等の灯台は当時の人々を驚かせるほど立派なものであった。

その後、大正三年（一九一四）七月に乙式石油蒸発自熱灯に改良され、昭和十三年（一九三八）には商用電力が利用された。灯火は一、五〇〇ワットの電球を光源とし、光度は二十六万燭光となった。昭和二十六年（一九五二）、鉄製灯台が老

朽化したため改築を施し、高さ二十八メートルの塔型コンクリート造りに改良されたが、海面から灯火中心までの高さは五十七メートルとなった。馴染みの深い白黒横縞模様の現在の灯台の誕生である。

昭和四十七年五月、無人化となり、翌四十八年に入道崎水島照射灯が初点灯された。そして、平成十年には点灯一〇〇周年を迎え、電球がA-2（一、五〇〇W）からメタルハライドランプ（四〇〇W）に変更されて現在に至っている。入道崎灯台は北緯四十度ラインに位置し、光達距離二十海里（約三十七km）で、照射角度は十度から二九三度となっている。

入道崎は昭和初期まで島や原野に住む人はもちろん、道路もなかった。映画「喜びも悲しみも幾年月」のように職員が住み込みで管理していた頃、地域住民もまたよく協力し、喜怒哀楽を共にした。

（取材・構成／藤原優太郎）

情報コラム Vol.4

県直営施設を 指定管理者制度へ移行

7施設は今年度末まで検討

平成15年の地方自治法の一部改正により、公の施設の管理を外部に委ねる場合に、地方公共団体が指定する法人その他の団体（民間事業者を含む。以下「指定管理者」という）に管理を代行させる「指定管理者制度」が創設されたことから、秋田県では平成18年度より直営施設を同制度へ移行させています。

この制度は、

- ①民間事業者の有するノウハウを活用、多様化する住民ニーズに効果的、効率的に対応
- ②管理運営費の縮減

を目的に、公募、選定委員会、議会の議決を経て管理者を指定します。

なお、平成18年度からは66施設について、管理者を指定、5年間（～平成23年）を基本的な指定期間として管理を委託しています。

なお、自動会館、農業研修センター、秋田県工業用水道等の7施設については平成18年度末までに指定管理者制度導入の可能性の検討を進められています。

詳細はホームページ「美の国あきたネット」—知事公室総務課からご覧頂けます。

東北の湯治場と湯治文化

永井登志樹

他の地方と比べて東北では湯治場と呼ばれる温泉が多い。今でも湯治は行われているが、私が温泉を訪ね歩くようになった1980年ころと比べてみると、湯治客は激減している。特に80年代の後半から目に見えて減りはじめ、バブル経済の崩壊した90年代で、湯治の衰退が確かなものになったように思う。

その原因は、人々の労働環境、経済の変動、公共の日帰り温泉施設の増加など、いろいろな要素がからみあっているが、もっとも大きな要因としては、農家の方たちをはじめとする第一次産業従事者の生活様式、生活サイクルが大きく変わったことが挙げられる。

正月湯治にはじまって、寒の湯（大寒のころにお風呂に入ると風邪をひかないといわれた）、春湯治、田植え前の湯、早苗振りの湯（田植えが終わった後の慰労を兼ねた）、泥落としの湯（泥の中での田植えは体が冷えきってしまうので、その冷えた体を温めるために温泉に行った）、そして丑湯治（7月の土用の丑の日に温泉に入ることが、特に東北では盛んだった）、盂蘭盆の湯、取り入れ前の湯、刈り入れ後の湯、秋湯治、冬湯治…。

農繁期と農閑期を巧みに使い分けたこうした温泉の全年の利用は、東北だけではなく、かつては日本各地で行われていた。しかし、これまで長い間かけて培われてきた独特の湯治文化も、湯治客の減少で徐々に廃れ、失われつつあるのが現状である。

東北の湯治場では、今でも自炊宿が普通にみられる。かつて日本の宿は木賃宿と旅籠屋に大きく分かれていた。旅籠は食事を提供する宿のこと。木賃というのは薪代のこと。自炊するために薪で火を焚くことからそう呼んだ。湯治するには何日も、時には1ヵ月も滞在するわけだから、食事代を払っていたらとてもお金がもたない。そのため温泉宿は木賃宿が多かった。

車がまだ普及していないころ、人里離れた山奥にあるような温泉には、米、味噌、醤油はもちろん、食器、調理器具から蒲団にいたるまで馬に背負わせて長い道のりを通ったものだが、その場合、燃料の薪も持参すれば宿に払うのは場所代だけでよく、木賃さえ必要なかった。東北の温泉はこうした自炊を主とした制度によって発達した歴史があるので、自炊部と食事付きの旅籠部（旅館部）の料金は大きな開きがある。

今は古くからの湯治宿であっても自炊部だけというところは少なく、旅館部と併設させているところがほとんどだ。最近の平均的な温泉宿の1泊2食付き料金は、だいたい10,000円～15,000円くらいが相場のようなところだ。ところが自炊部に泊まると2,500円～4,000円ほどで、旅館部の約4分の1という安さ。やはり旅籠のほうが儲かるのか、当初は自炊部のほうが規模が大きかったところも、一般客の増加に対応してどこも旅館部が自炊部を凌駕するようになっていく。自炊部は旅館部とちがって廊下と隔てるのは明かり障子、隣室とは襖仕切りで区切っている部屋も珍しくない。鍵もかからず声も筒抜け。防犯意識が高く、プライバシーが気になる現代人が利用するには抵抗感があるのも、影響

しているのかもしれない。

ただ、旅館経営で一番経費がかかるのが仲居さんなどの従業員の人件費。なかでも板前さん。腕のいい料理人は高給取りなので、食事に力を入れている宿であればあるほど経費もかかるというわけである。私は温泉宿で出される品数がやたらに多い料理が苦手だ。食べきれなくて残してしまう場合が多いので、料理にお金を使わずに、その分宿泊費を安くしてくれたらいいと思うのだが…。

自炊部でプライバシーがないといえば、相部屋も湯治客が多かったころは当たり前であった。初めて会った見ず知らずの他人同士が、狭い部屋の中で何日も寝起きをともにするなんて、とてもできないと思う方もいるだろう。だが、かつてはそれが普通で、相部屋になったのをきっかけに毎年の湯治にしめし合わせて来るようになったり、家族ぐるみの付き合いに発展して、親戚、兄弟のように仲良くなったという話を何度か耳にしたことがある。現在では相部屋を勧める湯治宿は、玉川温泉（仙北市）など一部の人気宿を除いてほとんど見られなくなった。

湯治場で見られなくなったものは、混浴も同様だ。私が盛んに温泉を訪ね歩いてきた25年前ころは、湯治場は混浴が普通で、むしろ別浴のほうが珍しかったくらいだった。村の共同浴場も混浴が多かった。そうしたところでは、お年寄りだけでなく結構若い方も入浴していて、それが特別なことでも何でもなく、混浴を問題視したりすることもなかった。

それが80年代の終わりころになると、バブルの狂騒の中で温泉ブームというのが始まって、若い人たち、特に女性たちが湯治客以外は見向きもされなかった山奥の辺鄙な温泉にまで出かけるようになった。私が20代のころは、温泉へ行くのは年寄り臭いことと思われていて、今のよう若い女の子が温泉めぐりをするなんて考えられなかったものである。

若者たちだけでなく、それまで温泉に興味がなかった中年女性、主婦の間にもブームが広がっていった。ただし、私のこれまでの経験では、若い女性よりも、むしろ中年女性のほうが混浴に対する拒否感、抵抗感が強いように見える。テレビ、雑誌などのマスコミの影響もあって、混浴目当てという不純な目的で温泉にやって来る連中がいたり、そんなこんなで80年代末から90年代にかけて、混浴だった浴槽を半分に仕切ったり、新しく女性用の浴槽を作る温泉宿が急増、あつという間に混浴風呂が姿を消してしまった。

青森県八甲田にある酢ヶ湯温泉には、千人風呂という有名な混浴の大浴場がある。その名物風呂での男性客のマナーの悪さが問題となり、混浴の維持とマナー改善に腐心しているということが、昨年、地元の新聞に大きく取り上げられていた。長年、酸ヶ湯に通っている湯治客たちが「混浴を守る会」を発足させ、館内に「異性入浴者は好奇の目で見るべからず」という看板を設置し、マナーを呼びかけているという。以前には考えられなかったことである。

混浴は日本人の美風のひとつであり、東北の湯治場では確かに混浴文化というものが存在していた。しかし、現実問題としてこのご時勢に混浴を維持していくのは難しい。酸ヶ湯の千人風呂などのように、構造上どうしても別浴にできないところは、女性専用時間帯を設けるのがここ数年の傾向となっている。このままでは純粋な意味での内湯の混浴は、近いうちなくなってしまうだろう。老若男女が湯船のなかで地元の民謡を歌いあう、そうした東北の湯治場ならではのリラックスした混浴風景が失われてしまうのは、大変寂しいことではあるが、これも時代の趨勢であろうか。